

# 豊橋市議会傍聴記

地方政治  
クリエイト  
伊藤 秀昭

豊橋版ネウボラ 近藤喜典氏(自民)は、妊娠から子育てに渡る切れ目のない支援の強化のため、国が「妊娠出産包括支援事業」の全国展開を目指していることから、フィンランドでの子育て支援「ネウボラ」をモデルに豊橋市の取り組みについて質問した。

安全・安心の産後ケアのために豊橋市のどこに切れ目があるのか、議論して欲しかった。また欧米では、ネウボラおばさんや出産ドゥーラ、産後ドゥーラが特別な教育

## 凛として市民の期待に応えよ

◎住民福祉

先の市議選では？ 人の共産党女性議員が議席を得て、注目された。

鈴木みさ子氏(共産)は、国保税の構造的な問題から国保税の引き下げや、制度改正により3年後には都道府県単位化となる影響、「介護

予防・日常生活支援事業」の広域連合との関連など、選挙戦で訴えてきた問題について、その背景にある国の制度改正などに「住民の福祉」を守るために市独自の取り組みを要請した。

正な入札制度について質問、「安価、高品質を認めない最低制限価格の撤廃を求め、努力する人が報われる社会」を強調した。

特に豊橋市では、経過措置に従い教育長の任期が満了するまで、新旧制度が混在している状態での質問となった。

育長、教育委員会が一体となつての取り組みに期待した。

「2002年に更新した熱分解高温溶融炉については、リサイクルの面からも十分な役割を果たし、満足できる成果を挙げている」と環境部長は答えたが、当時の議会で侃々諤々(かんかんがくがく)の議論にかかわ

3日間の一般質問に100人を超える市民が傍聴し、熱心に議会議論に聞き入った。それは、6人の新人議員を迎えた新体制議会への市民の熱い期待そのもの。それだけに一日目の本会議に遅刻してきた新人議員がいたが、踏み出した議会人としての人生に凛(りん)として臨んでいただきたい。



話を聞いた」の事例だけでは、説得力が弱いのではないかと。 ◎最低制限価格制度 寺本泰之氏(紘基会)は「いかなる団体、組織とも無縁な自分を信任いただきたい」と感謝し、三期目もムダ排除に取り組みとし、自由で公

ないとの結論を得ている。もつそもそつと止めませんか」との答弁に、何も言わずに降壇したのは、がっかり。

教育長は「人づくりの基礎となる教育はまちづくりそのもの、教育委員会の責任者として役割を果たしていききたい」と

月余り、広範囲の複合的な相談に事業全体を7名で実施している」と答えた。

「2002年に更新した熱分解高温溶融炉については、リサイクルの面からも十分な役割を果たし、満足できる成果を挙げている」と環境部長は答えたが、当時の議会で侃々諤々(かんかんがくがく)の議論にかかわ

その施設が更新時期を迎え、広域処理に向けた新施設が検討されていて、7年後には稼働を目指すという議論に時の経過を思い知った。